

野生動物の侵入被害から暮らしを守る「境界守システム」



境界守

概要

- 害獣と言われるイノシシやネズミ等による被害対策は、自然界のメカニズム、食物連鎖の一旦を活用することで解決できることに着目、「境界守システム」を開発
- 本システムは、主装置に付属する配音用パイプで、侵入を防ぎたい範囲を囲い、主装置から送り出される蜂の飛翔音や体臭等を分配、**野生動物共通の天敵、スズメバチ等の仮想生息域**を作ること、刺されることの怖さを知る動物の殆どが近づけない機能を有します。
- パイプで構築する防御ラインは、屋外はもとより屋内(床面から天井裏まで構造や形状・面積)等の制限を受けず設置が可能で、2~3m間隔で明けられた開口部から、音や臭いを拡散させる効果的防御システムです。
- 動力源は主として100v電源ですが、ソーラー発電にも対応しており、山間部での設置も可能な仕様です。

○対象品目

水稻	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	林業		その他

導入効果

- JR東日本、山田線におけるシカ対策において、完全とも言える有効性が確認されたことを始め、畜産飼料や食品製造工場等のネズミ対策、ゴルフ場でのイノシシ対策等、**何れの野生動物にも期待通りの効果を発揮**。
- 慣れて突破される**これまでの課題を克服**、また**対象害獣ごとの個別防御を不要**とし、環境にも優しい。
- 侵入を阻止する新忌避対策のため、**感染被害や食害も避けられ、駆除コストや事後処理費用も発生しない**。
- これまでの各種対策で課題となっている、設置に伴う物理的動線障害や景観を損なう問題も回避できる。
- 感染源がイノシシともネズミとも言われる豚コレラ対策においても、**両害獣共に防御効果のある新技術**です。

○該当するニーズ

項目	畜舎等
技術ニーズ	その他
具体的なニーズの内容	畜舎へのネズミや野生鳥獣の侵入防止技術

○開発等の段階

開発/実証中	
モニター販売中	
一般販売中	○ (レンタル制)
その他	

境界守システムの防御範囲

音の分配を目的としたパイプの設置ができるのであれば

害獣の種類を問わない

サル クマ
シカ ネズミ イノシシ
ハクビシン アナグマ コウモリ

害獣と言われる野生動物の殆どに効果を発揮します。

防御の対象を問わない

施設や耕作地、これらの形状、面積を問わず効果を発揮します。

飲食店 養豚場 養牛場 養鶏場 ゴルフ場
フードコート 鉄道 食品製造加工工場
農地 飼料製造加工工場 食品倉庫

ハチの羽音「効果バツグン」

山間部を走るJR養石線や山田線でのシカの侵入被害は、シカと人の衝突。なんとお防げないかとJR東日本グループと民間企業が協力し、ハチの羽音を使った実証実験を行った。効果はバツグンだった。

JR・養豚業者 実験

「JR東日本によると、2018年度上期(9月末まで)、列車とシカの衝突事故は養石線の8件、山田線で108件にのぼった。事故は、遅延などダイヤの乱れにつながる。対策に悩んでいたところ、グループ企業を通じて、広島県福山市の養豚業者「はなはな」を知った。同社養豚で得経験から、野生動物がスズメバチを恐れる習性を生かした装置を開発し、パイプを沿線に設置して、ハチの羽音を分配してシカを寄せ付けず、衝突を回避する。18年度上期の実証実験の結果、衝突事故はゼロだった。」「はなはなは、清水秀幸社長によると、2月には実験前にあったシカの足跡がなくなり、近所の住民からも「姿を見なくなった」と言われたという。

「今回は、ハチの羽音を地上に置くのではなく、地下に埋め込むことで、奥も拡散する。ハチの羽音が期待できる。シカのほか、イノシシ、クマ、アライグマにも一定の効果があるという。」「JR東日本は今回の結果を受け、本格導入すべく検討中だ。」(養豚業者)

線路脇の配管

📞連絡先

(株)はなはな/境界守本舗
TEL:084-983-2415
<https://kyoukaimori.com/>
info@kyoukaimori.com

境界守本舗HP

